

事業中評価チェックリスト

事業名		路線・河川 ・地区等名		うちくら 内倉		施行 場所		にしおきたまぐんしらたかまちしもやま 西置賜郡白鷹町下山	
番号		25							
事業名		土砂災害対策事業 (砂防)		路線・河川 ・地区等名		うちくら 内倉		施行 場所	
評価該当基準		事業採択後5年間を経過した時点においても継続中と見込まれる事業						実施主体	
山形県		事業採択年度		R2		全体事業費(進捗度%)		3.0 億円 (28.4%)	
目標年度		R8		内工事費		2.0 億円 (0.0%)		事業延長等	
[当初目標年度]		[R6]		内用地・補償費		0.1 億円 (0.0%)		供用延長等	
(過年度評価時目標)		()		内測試費等		0.9 億円		なし	
事業の目的(地域性・特質性) ・最上川水系内倉は山形県西置賜郡白鷹町の北部に位置し、保全対象として人家2戸、宿泊施設、白鷹町道がある土石流危険渓流である。 流域内は荒廃が進み、渓床には多量の不安定土砂が堆積しており、土石流発生の危険性が非常に高いため、今後、大雨などの出水により土石流が発生した場合、甚大な被害を及ぼす恐れがある。そのため、砂防えん堤等を整備し、土砂災害を未然に防止するものである。									
事業概要(主要工事内容) ◆主要工事:砂防えん堤1基、溪流保全工1式									
事業の実施状況 ・R5年の時点で砂防えん堤の詳細設計が完了しており、今後用地調査を行う。									
上位計画、その他事業との関係(各上位計画で定めている項目を表すコード) ・第4次県総合発展計画 → 災害に強い強靱な県土づくり[4-1-①] ・やまがた水害・土砂災害対策中期計画 → 重点整備箇所の対策強化[5.2.3-①]									
今後の事業の見通し ・砂防えん堤について、令和8年度の完成に向けて工事を進める。									
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ① 国、県の政策や計画の転換等 暮らしの安全・安心に直結する事業であり、政策や計画の転換はなし。 ② 財政状況の変化 令和2年度の豪雨など、大規模な災害が発生していることから、事業箇所数が増加し、1箇所当たりの事業費が減少している。 ③ 事業実施地域の周辺環境の変化 近年、局所的な集中豪雨が多発しており、土砂災害対策の必要性が高まっている。 ④ 地元の協力体制の変化 事業に対する反対者はなく、協力体制は良好である。 ⑤ 利用者見込み者数の大幅な変化 保全対象施設に大幅な変化はない。 ⑥ 代替方策による必要性の変化 土石流による土砂災害を防止するには砂防えん堤工が最善の方策であり、代替方策はない。また事業の必要性に変化はない。 ⑦ その他 令和2年に土石流による被害があり、地域住民からは早期の完成が望まれている。事業溪流の流域では荒廃が進んでいるため、再度被害がおきないように、本事業を早期に概成させる必要がある。									
事業の投資効果 (凡例) ● 貨幣換算し、費用便益分析における便益(B)に計上している事業効果 ○ 貨幣換算する手法が確立されていないものの、事業により得られる効果の例									
投資効果		●下山地区の人家2戸及び宿泊施設1施設の建物及び人的被害を軽減する。 ○土砂災害に対する不安感を解消し、安心感が向上する。 ○土砂災害発生時に宿泊施設の孤立を回避する。							
社会的割引率		B/C		B/Cの代表的な分析指標		・総便益の現在価値(B)		4.1億円	
4%		1.4				・総費用(事業費+維持管理費)の現在価値(C)		3.0億円	
2%(参考値)		2.0							
1%(参考値)		2.5							
●コスト縮減・○代替案等の可能性 ●計画時に工法等の検討を行い、コスト縮減に努めている。 ○土石流対策としての防災施設は砂防えん堤が最も効果的かつ合理的であるため、代替施設はない。									
当初又は前回評価時目標年より延長となる場合の理由(計画どおりの場合は空欄) ・土砂災害対策事業費を予定通りに確保出来なかったため。									
評価区分		継続 A		評価の理由		目標年次に対し2年遅れとなるが、事業の重要性、地域の要望・協力等を総合的に判断し、継続としたい。			